

## 観光社会資本の事例

テーマ	人工海浜の整備による海洋性レクリエーション
<p>【施設の状況写真】</p>  <p>琉球八景の一つでもある波之上宮のある崖(筍崖夕照:上記左下写真)を挟み若狭側(上記中央写真)と辻側からなる人工海浜で、都市部には少ない海洋性レクリエーションが楽しめて、多くの市民や観光客に利用されている。</p>	
<p>【施設の利用写真】</p>  <p>毎年4月の海開き以降、地元の家族連れ等海水浴を楽しむ状況</p>  <p>景観にも配慮した各種利便施設の設置状況</p>	
<p>【観光資源としての利用状況】</p> <p>波之上人工ビーチは、多くの人々が海水浴を楽しむと同時に、一部の養浜を利用してビーチバレーやビーチサッカー等、レクリエーションニーズに対応した施設である。また、ハブクラゲ防護ネットなどの安全設備も充実しており、誰もが気軽に利用できるような人工海浜である。</p> <p>港湾管理者で整備を行っているが、管理面においては那覇市に委託しており、背後地域との連携を図り、より一層観光面における強化に取り組んでいるところである。</p>	

テーマ	人工海浜の整備による海洋性レクリエーション
<b>【社会資本の基礎データ】</b> ○名称 波之上人工海浜(波之上人工ビーチ) ○所在地 沖縄県那覇市 ○事業名 海岸環境整備事業 ○事業主体 港湾管理者 ○事業期間 平成3年度～平成12年度	
<b>【社会資本の役割・効果】</b> ○利用効果 これまで観光の拠点となる那覇市近郊には、自然の海岸線が殆どないことから、市民の強い要望を背景に、一部一般に利用されていた海岸線を含め、平成3年度から周辺の環境整備として事業が開始された。 その後、平成10年9月には、人工海浜(若狭側、辻側)の全面供用や周辺にレストラン・リゾートホテル等の立地も併せ、年々利用者数(市民や観光客)が増えて、今後も利用者が増大するものと期待されている。 平成15年には、若狭側と辻側を合わせて30万人近い利用者がある。(平成16年から辻側が道路整備のため閉鎖区域となっている。)	
<b>【位置図】</b> 	
<b>【関連ホームページ】</b> <a href="http://www.naha-navi.or.jp/UTH">http://www.naha-navi.or.jp/UTH</a> (那覇市観光協会) <a href="http://www.city.naha.okinawa.jp/kanko/nahatabi/index.htm">http://www.city.naha.okinawa.jp/kanko/nahatabi/index.htm</a> UTH(那覇市経済観光部観光課)	

